

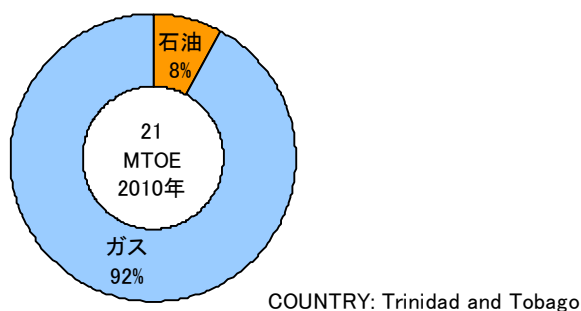
3-9 トリニダード・トバゴ

1. サマリー

1. エネルギー事情

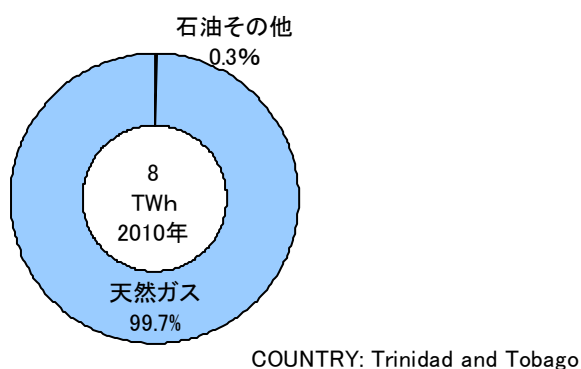
- (1) 一次エネルギー総供給量 (2010年) : 21.35 百万 TOE (日本の 0.05 倍)
- (2) 一人当たり一次エネルギー供給量 (2010年) : 15.92TOE/人 (日本の 441%)
- (3) エネルギー自給率 (2010年) : 211%
- (4) エネルギー起源 CO2 排出量 (2010年) : 42.8 百万 CO2 換算 ton (日本の 0.037 倍)
- (5) 一人当たりエネルギー起源 CO2 排出量 (2010年) : 31.9 CO2 換算 ton/人 (日本の 356%)
- (6) エネルギー別可採年数 (2011年末) : 原油 16.7年、天然ガス 9.9年

一次エネルギー供給構成 (2010年)



(出所) IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries 2012 Edition

発電電力量構成 (2010年)



(出所) IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries 2012 Edition

2. エネルギー政策のポイント

(1) エネルギー政策担当機関

- トリニダード・トバゴ (T&T) におけるエネルギー政策は、エネルギー省 (Ministry of Energy and Energy Affairs: MEEA) が担当している。2012 年 10 月末現在のエネルギー相は Kevin Ramnarine 氏である。

(2) 基本政策

- T&T のエネルギー政策は以下の通りである。
 - 状況の変化に対応でき、持続可能な発展を促進できるような効率的な管理体制、法的規制および財政的な枠組みを構築する。
 - 国内のエネルギー供給を確保する。
 - 国内原油生産を最大化する。
 - 現有の石油精製能力を有効活用するとともに、更なる能力増強を図る。
 - 石油化学産業など天然ガスを原料とする下流部門の発展および、ガスをエネルギー源とする他産業の発展を通じて、天然ガスの効率的かつ最適な現金化を図る。
 - 顧客に焦点を当てた効率的な小売市場の開拓を行う。
 - CNG など、クリーンエネルギー・再生可能エネルギーの積極的な導入促進を行う。
 - 環境保護・環境保全に取り組む。
 - 国際競争力を持つために、研究開発や国民への啓蒙活動を行う。

(3) 最近の動向

- 2012 年 3 月、Bissessar 大統領は閣議終了後、国営石油会社 Petrorin が埋蔵量 4,800 万 bbl の油田を発見したのは同国にとっては「歴史的発見」として発表した。
- 2011 年は、石油、ガス部門ともメンテナンスに伴う装置の稼働停止により生産量が大幅に減少した。(石油では、前年比 6,000b/d、ガスでは前年比約 5%の減少) このため、エネルギー省は上流部門と下流部門の需給を調整する役割を担う委員会を 2012 年に立ち上げた。

3. 日本とのエネルギー分野における関係

- 2011 年に日本は、T&T から 31.6 万トン LNG を輸入し、その額は約 136 億円であり、対前年比数量で 277%、金額で 261%であった。

2. 主要エネルギー指標

(2010 年)

(1)	一次エネルギー総供給量	21.35 百万 TOE
(2)	一人当たりの一次エネルギー供給	15.92 TOE/人
(3)	GDP 当たりの一次エネルギー供給	1.14 TOE/千\$
(4)	エネルギー自給率	211 %
(5)	エネルギー起源 CO ₂ 排出量	42.8 百万 CO ₂ 換算 ton
(6)	一人当たりエネルギー起源 CO ₂ 排出量	31.9 CO ₂ 換算 ton/人
(7)	エネルギー源別構成率	
	石炭	0 %
	石油	7.8 %
	ガス	92.1 %
	原子力	0 %
	水力	0 %
	再生可能エネルギー等	0.1 %
(8)	エネルギーの輸入依存度	-111 %
(9)	石油の輸入依存度	-352 %
(10)	輸入原油の中東依存度	N/A %
(11)	原油輸入先	
	第 1 位	N/A
	第 2 位	N/A
	第 3 位	N/A

(出所) (1)～(4) および (7)～(9)は IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries 2012 Edition,
(5)～(6) は IEA, CO₂ emission from fuel combustion 2012